

新潟市立岩室中学校

学校データ

【学級数】

9学級

【児童生徒数】

210人

【地域コーディネーター
の有無】

有

子どもも大人も関わる喜びを味わう地域学校協働活動の継続

1 はじめに

岩室中学校は、昭和39年に和納中学校と統合して設立された。学区の間瀬地区では日本海、岩室地区では山と川に囲まれた温泉街、和納地区では田園風景と、豊かな自然に恵まれた地域である。

また、コミュニティ協議会を始めとした地域団体の活動がとても活発で、昔から学校と連携し、「間瀬海岸クリーンアップ」や「矢川灯籠流し」等、数多くの伝統的な地域連携行事が行われてきた。

地域の課題としては、高齢化と人口減が進み、子どもと地域の方との触れ合いが少なくなっていることがあげられる。また、中学生になると地域の方との直接的な関わりが少なく、地域の方も中学校は敷居が高いと感じている。さらに、行事の多さから負担感を感じるという教職員の声もあった。そこで、平成29年度の「ドリームプロジェクト」への応募を契機に、地域の方と子どもとが直接的に関わる活動や地域貢献活動を負担なく継続し、子どもにも地域の方にも関わる喜びを実感してもらうことを重点として、地域連携行事の整理統合に取り組んできた。

2 取組の実際

(1) 持続可能な楽しいプログラムづくり

- ① 「学ぶ・遊ぶプロジェクト」の継続
平成29年には「学ぶ・遊ぶプロジェ

クト」を新設し、計48名の地域ボランティアさんから、全校生徒が、けん玉やあやとり等の伝承遊びや、糸つむぎなどの地域に伝わる工芸を教えていただいた。

この活動を継続的なものにするため、毎月1回昼休みに地域の方から来ていただき、囲碁・将棋や折紙などを教えていただいている。事前の準備も申込も不要でふらっと訪れた女子生徒が将棋にはったり、将棋好きの職員が参加したりするなど、負担なく子どもも地域の方も楽しめる活動として今年度は完全に定着した。



< 囲碁・将棋 >



< 折紙 >

②「岩室リハビリテーション病院交流会」

ボランティアの精神を学び思いやりの心を育む目的で始められた本活動には、有志の生徒ボランティアが60名以上も集まる。アルミ缶を集めて換金し、歩行器等をプレゼントしたり、歌や踊りを披露したり、吹奏楽部が演奏したりして、病院の患者さんと交流している。患者さんの中には生徒の歌を聴いて涙ぐむ方もおり、生徒にとって貴重な「感謝される体験」となっている。

以前は患者さん一人一人に手書きのプレゼントを制作するなどの準備活動にかなり時間を取られていたが、プレゼントは簡素化し、当日の交流を楽しんでもらう内容にして、負担感を軽減した。学年行事ではなく、ボランティア委員会主催の活動としたことで今後も継続的に行われていくことと思う。



(2) 教育課程への位置付け

「矢川灯籠流し」

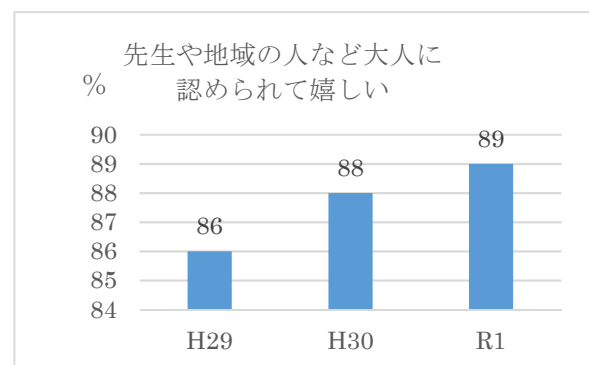
10年前から岩室温泉街の風物詩となっているこの活動は、現在コミュニティ協議会の主催で行われているが、下記のようにしっかりと教育課程に位置付けた。「地域の方の矢川との戦いの歴史や水の大切さを知る」という目標のもと事前学習を行う（総合学習）。俳句の基礎を学び地域を大事にした俳句を作る（国語，学活）。マープリングの技法を学び灯籠の用紙を製作する（美術）。当日（6月第2土曜日）の参加は

希望制だが、事前の活動を教育課程に位置付け、全校生徒が携わっていることで、全員が活動の意義や目標、地域の大切な行事として関わっているという意識の共有ができています。



3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

地域ボランティアの皆さんに事前に「生徒に人と関わる喜びを味わわせ、自己肯定感を高める」という目的を伝え、たくさんほめていただいた。成果として、少しずつではあるが、3年間で学校評価の「大人に認められて嬉しい」という回答が増えている。今後、この「嬉しい」という気持ちを、未来の地域貢献や地域活性化につなげていけるよう、事前事後の学習等を系統化することが課題である。



4 おわりに

「学ぶ・遊ぶプロジェクト」では、子どもと地域の方が気軽に直接ふれ合う時間が継続され、定着した。このように、今後も負担感なく子どもも大人も楽しみ学び合うことのできる活動を教育課程の中で系統的に継続していきたい。